

【パネル②】

「NISA を活用したポートフォリオ構築について」

<パネリスト>

塚本 卓治氏

ピクテ・ジャパン株式会社 エグゼクティブ・ディレクター運用本部 投資戦略部長

新村 光秀氏

フィデリティ投信株式会社 執行役員 戦略営業本部長

川嶋 昭臣氏

野村アセットマネジメント株式会社 資産形成ソリューション部長

<ファシリテーター>

吉田篤氏

シグマ株式会社 代表取締役

第5回FAカンファレンス

2024年11月

FAカンファレンス限投影資料/顧客配布厳禁

野村アセットマネジメント

NOMURA

NISA対象ファンド

販売用資料
2024年11月

のむラップ・ファンド

保守型
やや保守型
普通型
やや積極型
積極型

<追加型投信/内外/資産複合>

NOMURA

のむラップ ファンド

商品説明サイトはこちら

運用報告動画はこちら
(保守型、普通型、積極型)

【のむラップ・ファンド】は、NISA(少額投資非課税制度)の対象です。

※のむラップ・ファンド(積極型)は、NISAの「つみたて投資枠」および「成長投資枠」の対象です。

※のむラップ・ファンド(保守型)(やや保守型)(普通型)(やや積極型)は、NISAの「成長投資枠」の対象です。

※販売会社によりお取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

設定来のパフォーマンスと純資産総額の推移

■ 保守型
■ 普通型
■ 積極型
■ やや保守型
■ やや積極型

■ 年3%目標払出
■ 年6%目標払出
■ 保守型
■ 普通型
■ 積極型

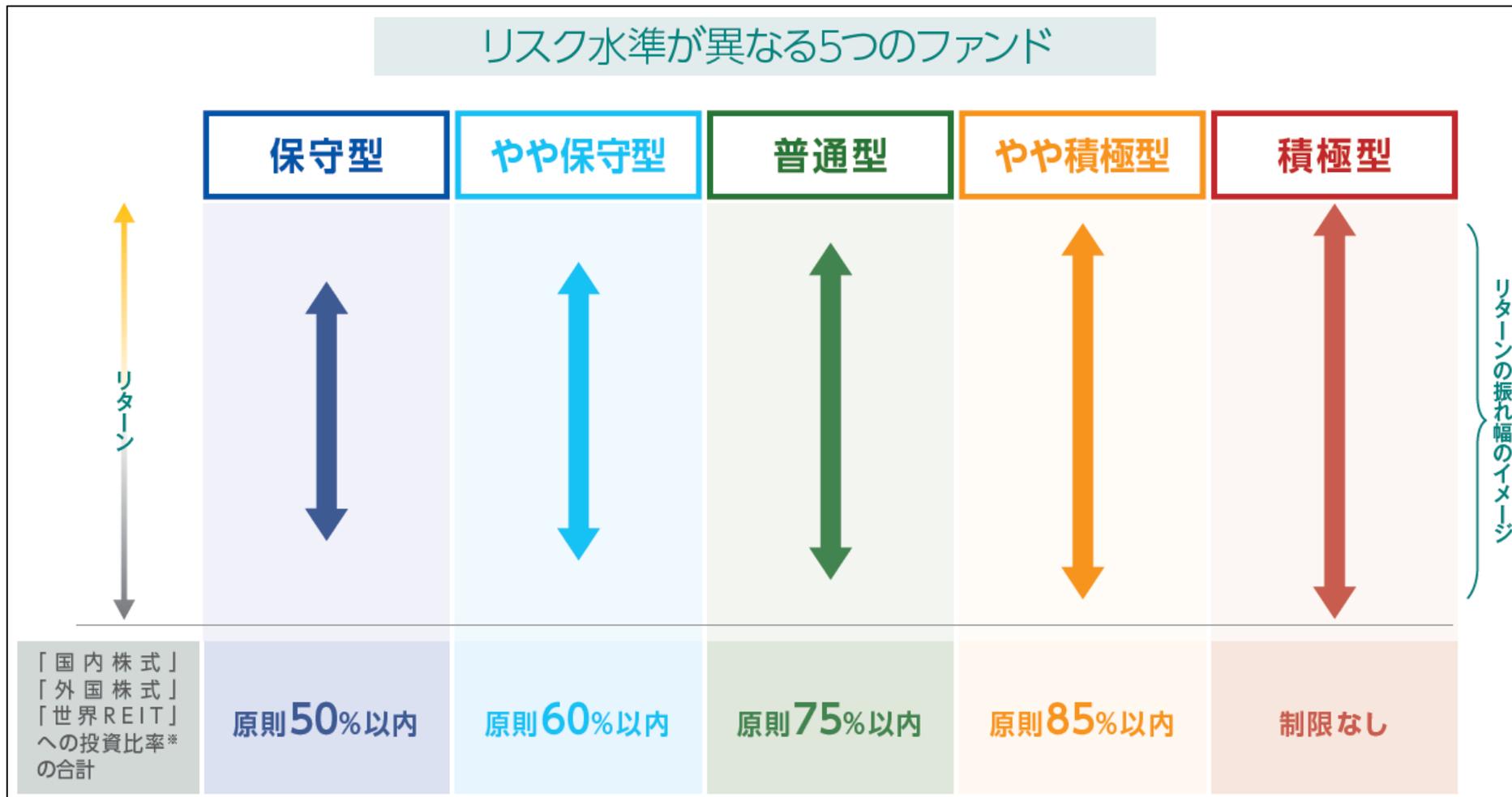
■ やや保守型
■ やや積極型
■ 年3%目標払出
■ 年6%目標払出

期間：2010年3月15日（設定日）～2024年11月7日、日次。ただし、やや保守型とやや積極型は2016年11月11日設定、年3%目標払出と年6%目標払出は2019年11月8日設定。
 基準価額（分配金再投資）とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した貴社内限資料です。当資料の顧客等貴社内以外への配布、提示は法令違反となる可能性がありますので厳に慎んで下さるようお願いいたします。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

1

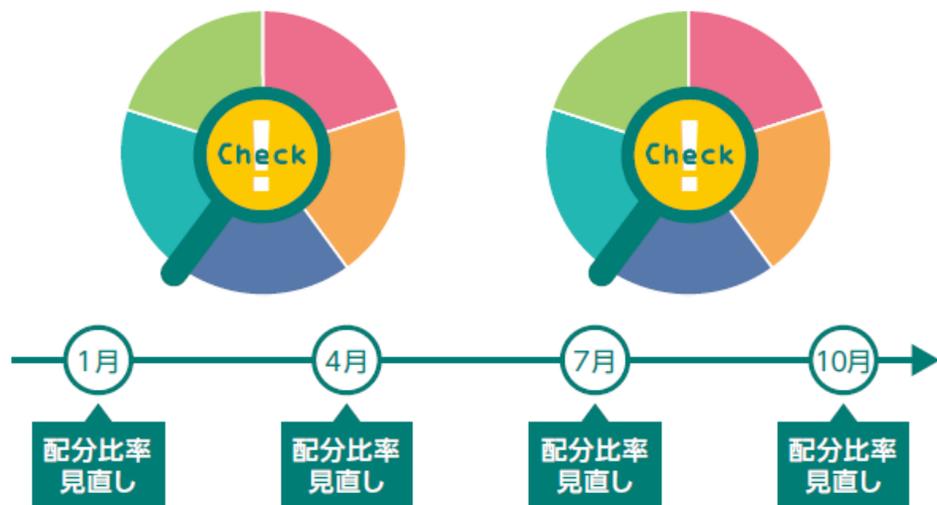
リスク水準が異なる5つのファンド



定期的なメンテナンスを通じて、リスクを管理

投資配分比率の定期的な調整と見直し

【のむラップ・ファンド】は、投資対象資産の期待リターンやリスク、各資産の相関係数など長期的な観点から、目標とする投資配分比率を定期的(3ヵ月ごと)に見直します。また、中短期的な投資対象資産の値動きの観点から、目標とする投資配分比率を1ヵ月ごとに見直します。

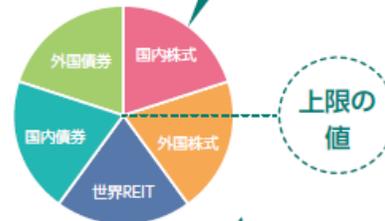


目標の投資配分比率への調整

あらかじめ、目標の投資配分比率に上下限を設け、値上がり値下がりによって、その範囲を超えた場合、目標の投資配分比率にもどす売買を行いません。一定のルールの中、投資配分比率に大きなゆがみがないように調整します。

例) 国内株式の組入比率が上限に到達した場合

目標の投資配分比率



目標の投資配分比率にもどす



価格変動



実際の投資配分とは異なります

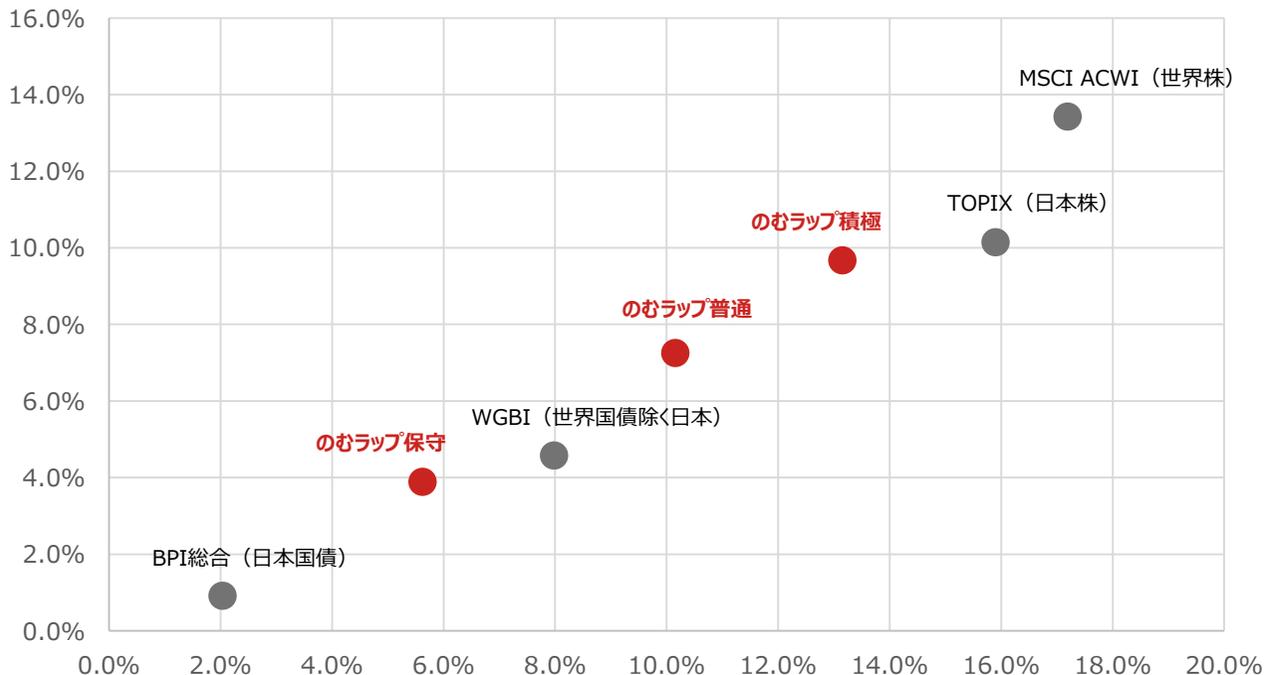
上記はイメージ図です。

出所：野村アセットマネジメント作成

目標とするリスク水準と実績値の比較

設定月未来の「のむラップ」保守・普通・積極のリスク・リターン・プロット、並びに目標リスク水準と実績リスク値の比較

期間：2010年3月末～2024年3月末、月次、ACWIとWGBIは円換算ベース



	目標リスク水準	実績値
REIT/株		
積極型	14%程度	13.2%
やや積極型	12%程度	10.5%
普通型	10%程度	10.2%
外国債券		
やや保守型	8%程度	6.6%
保守型	6%程度	5.6%
国内債券		

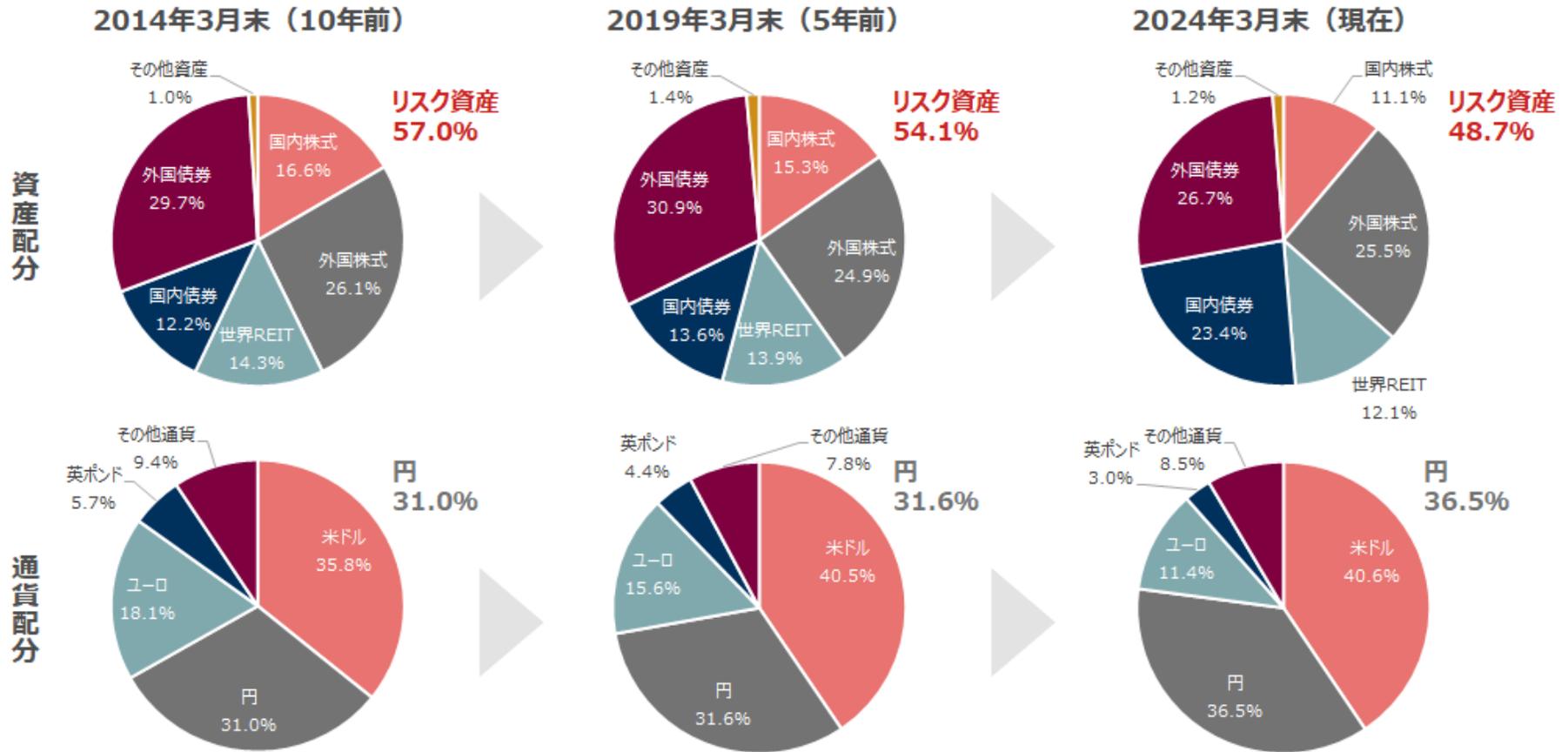
※上記、やや保守型とやや積極型の実績リスク値は、2016年11月末～2024年3月末で算出しているため、保守型・普通型・積極型の算出期間とは異なることにご留意ください。あくまでも、参考値です。

	保守型	普通型	積極型	日本株	世界株	日本国債	世界国債 (除く日本)
年率リターン	3.9%	7.2%	9.7%	10.1%	13.4%	0.9%	4.6%
年率リスク	5.6%	10.2%	13.2%	15.9%	17.2%	2.0%	8.0%
シャープレシオ	0.69	0.71	0.73	0.64	0.78	0.45	0.57

出所：Bloomberg、FUNDMARKのデータを基に野村アセットマネジメント作成

のむラップ[®]（普通型）の資産/通貨配分の変化

- ✓ 以下は、2024年3月末を起点として、**10年前**、**5年前**、**現在の**、のむラップ普通型の**資産配分と通貨配分**を見たものです。
- ✓ ポートフォリオのリスク水準を保つため、その時代、その時代によってポートフォリオがメンテナンスされていることがご確認いただけます。



出所：野村アセットマネジメント作成

～様々なアプローチ～ 資産別、年代別のアプローチ

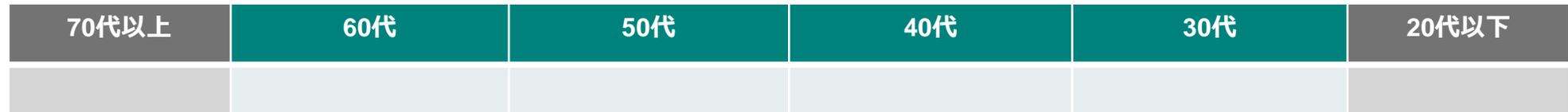
■資産別（イメージ）



債券投資から、次のステップへ

株式投資から、よりリスクを意識した投資に

■年代別（イメージ）



【シニア層】

- 退職金の運用を考えているお客様
- ポートフォリオのリスクを再考したいお客様

【ファミリー層】

- 仕事に子育てに忙しいファミリー層のお客様
- 教育費や住居購入費に備えて資産形成をしたいお客様

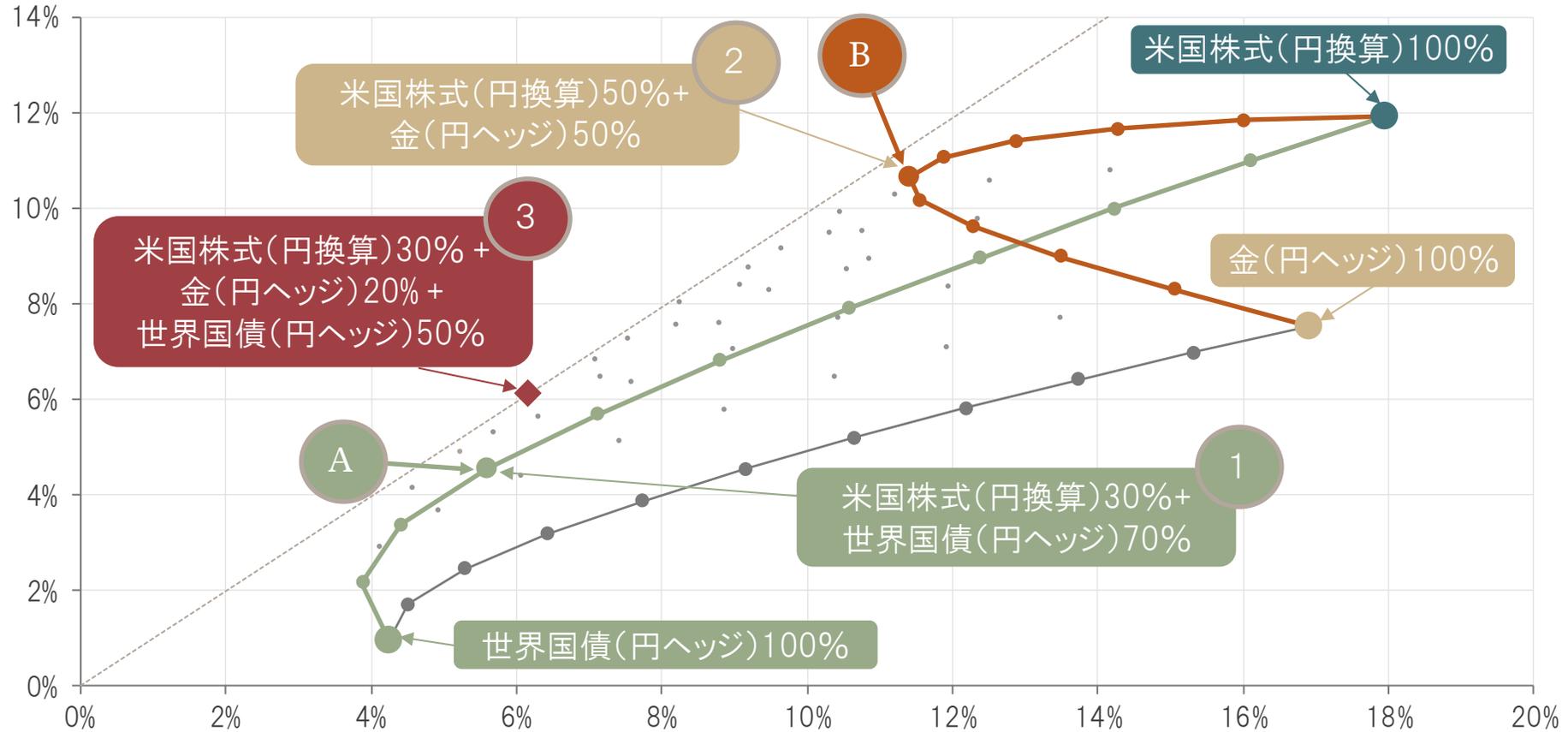
リスクとリターンをバランスを意識したい世代

出所：野村アセットマネジメント作成

②運用会社のポートフォリオ構築の手法について：金を組み入れることによる運用効率の改善

米国株式、世界国債と金との組み合わせによるリスク・リターンの変化

月次、期間：2004年10月末～2024年10月末



※グラフ内に表記した各資産の組合せ比率は、運用効率が最も高い比率。運用効率とは、取ったリスクがどれだけ無リスク資産に対する超過リターンを生み出したのかをみたもの(シャープレシオ)。ここでは無リスク資産の利回りはゼロと仮定。そのため、リスクに対するリターンで計測。

※米国株式(円換算)：S&P500 種株価指数(配当込み)を円換算。金(円ヘッジ)：ロンドン市場金価格(米ドルベース)から理論的なヘッジコスト(ドル円 1 ヶ月フォワードレートから算出)を控除し算出。

世界国債(円ヘッジ)：FTSE 世界国債指数(除く日本・円ヘッジ)。米国株式と金(円ヘッジ)および世界国債(円ヘッジ)との組合せは月次でリバランス。リバランス費用は考慮せず。

※価格変動リスクは月次の騰落率の標準偏差、リターンは税引前(ともに年率換算)。

※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。

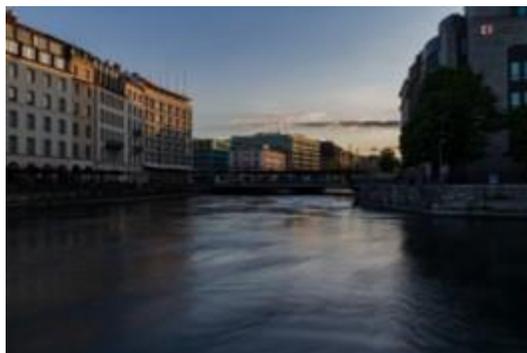
出所：ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。●投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。●運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

④運用立国に向かう 会社としての責務について:

ピクテについて



200年を超えて蓄積されたインサイト

1805年の創設以来、世界恐慌、リーマンショックなど動乱の時代もお客様の財産を守り続けてきました。

- ・ 絶えず高度化を続けるアセット・アロケーション運用戦略



投資家の利益を最優先資産管理・運用に特化

資産管理・運用に特化することで、他の金融ビジネスの影響を受けない独立性を確保。お客様と長期的に共存共栄できるビジネスモデル。

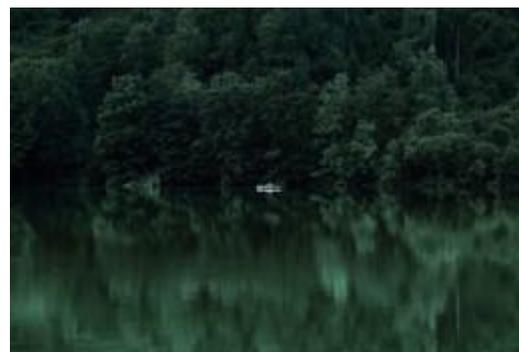
- ・ グループ全体の運用資産総額は約115兆円^{注2} (2024年3月末現在)



パートナーによる共同経営形態

株式公開をせず少数のパートナーが共同出資したユニークな経営形態。短期的な利益を追求することなく、長期視点での経営が可能に。

- ・ 格付評価Aa2 (ムーディーズ・レーティングス)^{注1} (2024年3月末現在)



豊かな社会の実現を目指す取り組み

欧州で先行するESG評価を運用プロセスに組み入れて、投資家としての責務を果たすと同時に、より持続的で豊かな社会を目指します。

- ・ ESGを重視した投資対象先企業との対話で豊かな社会の実現に貢献
- ・ サステナビリティをテーマとする国際写真賞「PrixPictet」の運営

(上段左から)フランソワ・ピクテ、レイモンド・サガヤン、セバスチャン・エサンジェ、スヴェン・ホルステンソン、ロゴン・ラムゼイ
(下段左から)エリフ・アクトゥグ、マーク・ピクテ(シニア・パートナー)

©Guillaume Megevand for the Pictet Group

注1 上記の格付はピクテ・グループの銀行部門の債務の信用に対するもので、運用部門や運用能力に関するものではありません。

注2 適用レート: WMOイター 1スイス・フラン=163.12円

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。●投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。●運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。